

町内4年生と5年生
すべてのクラス
全23公演!



学校アウトリーチ ～アーティストが教室にやってきた!～



今年度の学校アウトリーチは5月18日(火)～6月11日(金)に実施。アーティストは、繊細かつ大胆な蛇腹使いが魅力の「アコーディオンの魔法使い」こと「かとうかなこ」と、タンバリンが好き過ぎて、いつしか「タンバリン博士」と呼ばれるようになった「田島隆」さん。子どもたちはただ演奏を聴くだけでなく、ボディ・パーカッション「マイム・マイム」でプロのアーティストと共演するなど、盛りだくさんのプログラムを楽しんでいました。



<子どもたちの感想>

- タンバリンは、どの国も、同じだと思っていたのでおどろきました。
- いろんな演奏をしてくれて楽しかったです。1曲1曲に気持ちが伝わってきました。
- かなこさんと隆さんが笑顔でリズムに乗りながら演奏していたので、私たちも笑顔になって聴けました。
- 音楽室にはいつか来たときに大きな音がしてびっくりしたけど、だんだん楽しくなっていて「音楽ってすごいな」と思いました。
- アコーディオンの10kgを軽々持てるのはすごいです。ぼくは米の10kgなら日常ですが、30分ぐらいはさすがに持てないので感心しました。
- 前の日からとても楽しみでした。コロナの関係かはわからないけど、最近こういう授業があまりなかったので、あってよかったです。とっても楽しくてとっても最高でした。



- ぼくは最初「アコーディオンってなんだっけ?タンバリンなんてぼくでもできるよ」などと思っていたけど、部屋に入ってきて演奏を聴いて、アコーディオンは手がとても速く動いて、ボタンを190個も使い分けていたし、タンバリンもすごくて、自分で作ったタンバリンもあってびっくりしました。これからも演奏を続けていってください。
- コロナの時期で大変な中だったけど、とても楽しい思い出になりました。お二人の演奏を聴いて心を動かされたのが一番の印象でした。
- 心がどーんとなった感覚を初めて体感したのですごくびっくりしました。その体験をできたので、すごくうれしかったです。
- 家に帰ってからお母さんとお父さんに「今日アコーディオンとタンバリンを聞いたんだ。」と言って自慢しました。
- タンバリンを速くたくコツを教えてもらったので、音楽の授業でタンバリンにふれる機会があれば、田島さんに教えていただいたい叩き方をためしてみようと思いました!



アウトリーチとは

武豊町と協働でゆめたろうプラザを運営しているNPOたけとよは、2005年度から舞台芸術のアウトリーチ活動(以下アウトリーチ)を武豊町教育委員会と共に行ってまいりました。武豊町学校アウトリーチは、芸術を表現する側と観る側の垣根を越えて、アーティストと参加者の間でお互いに積極的な交流ができるプログラムを目指すもので、小さい会場(音楽室など)・少人数(クラス単位)で、プロの演奏や表現を鑑賞したり、一緒に参加してもらったりします。私たちは武豊町のすべての子どもたちに、目の前で優れたプロアーティストの芸術を体験する機会を作りたく、2010年度から毎年町内の全小学校の4年生を対象にアウトリーチを行っています。残念ながら昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として中止になりましたが、皆さんからの要望と、学校の先生方の支えのおかげで、今年度はすべての4年生と5年生(全23クラス)にアウトリーチを体験してもらうことができました。